

小学校社会科における 地理的条件をふまえた歴史授業の展開

— ISM 構造学習法を活用した協働学習の教材開発 —

坂間 俊夫*・波多野和彦**・山路 進**

要 旨

歴史学習を特に「世界史」の学習に不可欠である地理学習を小学生のうちから習慣付くように、歴史と地理の関連を学習する授業展開を開発した。

キーワード：小学校社会科、歴史、地理、構造学習、学習指導要領

1. はじめに

歴史の授業では、地理的背景、政治的背景などとの関連付けを理解させることが大切である。特に、現在必修となっている高等学校「世界史」を学習する上では、地理的素養が必要不可欠である¹⁾。

高等学校の学習指導要領では地歴科の中から「世界史 A」または「世界史 B」を必修とし、「日本史 A」・「日本史 B」または「地理 A」・「地理 B」から 1 科目、合計 2 科目 4 単位以上を履修すればよいとしている。そのため、高等学校で地理を履修することなく卒業する生徒もいる。中学校では地理分野・歴史分野・公民分野の 3 分野となっており、公民分野は概ね 3 年生で履修するが、地理・歴史を学年ごとに配当したり、同学年に 2 科目配当したり、学校ごとにまちまちである。

一方、小学校社会科では、3・4 年生では児童たちの生活圏を中心とした学習、5 年生では地理分野、6 年生上で歴史分野、6 年生下で公民分野

が配当されており、3 年生での「わたしのまち みんなのまち」で自校周辺の歴史文化などを学習する以外歴史と地理の関係を学習する機会はほとんどない。

2. 学習指導要領における社会科の取り扱い

小学校社会の学習指導要領第 6 学年²⁾の「1. 目標」の(3)に

社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

と書かれており、「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」2 の(2)に

各学年において、地図や統計資料などを効果的に活用し、我が国の都道府県の名称と位置を身に付けることができるように工夫して指導すること。

と書かれている。

* 京都外大西高等学校

** 江戸川大学

一方、中学校社会の学習指導要領歴史分野³⁾の「3 内容の取扱い」(1)のEで

歴史的事象の指導に当たっては、地理的分野との連携を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮すること。

と書かれていて、中学校では地理的条件もふまえて学習することとしている。

しかし、前述のように高等学校「世界史」の学習では地理的条件の知識は必要不可欠であるため、小学校から歴史学習のなかで地理的条件を学習する習慣づけることが、重要であると考えられる。

小学校社会3・4下(4年生に担当)の「私たちの県を調べる」の単元で、東京書籍はその例として兵庫県の篠山市・豊岡市・姫路市、教育出版は福岡県太宰府市・横浜市などがあげられているが、日本の歴史と関連づけてそれらの地域を学習するには小学生では無理があるので、6年生で学習する「日本の歴史・武士の世の中へ」から鎌倉幕府を題材に、「幕府」と「鎌倉」を取り上げる。

3. 鎌倉幕府の学習

3.1. 教科書会社の指導計画案

「鎌倉幕府」の学習について小学校社会の教科書を発行している出版社4社のWebサイトで公開されている指導計画案をまとめてみると以下のようになっている。

- ・東京書籍⁴⁾
単元：頼朝が東国を治める
学習活動・指導上の留意点等
- ・鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、政子の訴えなどをもとに鎌倉幕府の特色について調べ、分かったことや考えたことを話し合う。
- ・源頼朝はご恩と奉公の関係で武士を従えた。
- ・承久の乱の後、鎌倉幕府の力は西国にまで及ぶようになり、執権の北条氏を中心とした幕府は法律や裁判の制度を整えて支配力を強めていっ

た。

- ・教育出版⁵⁾
単元：幕府を開いた源頼朝
学習活動・指導上の留意点等
- ・鎌倉の地形的な特徴を読み取り、これまでの政治の中心との違いを考える。
 - ・「ご恩と奉公」「いざ鎌倉」という言葉を手がかりに、幕府と御家人の関係について話し合う。
 - ・幕府の政治のしくみや朝廷との関係を調べ、鎌倉時代の特徴を考える。
- ・日本文教出版⁶⁾
単元：源頼朝が鎌倉幕府を開く
学習活動・指導上の留意点等
 - ・頼朝がおこなった政治について調べ、土地を仲立ちとした「ご恩と奉公」という将軍と御家人の強い結びつきがあったことをとらえることができる。
 - ・写真や図を手がかりにして、天然の要害地としての鎌倉を理解させ、将軍と御家人との結びつきについては、図の説明や、北条政子のうったえなどの逸話が意味するところを細かく説明して、具体的なイメージがもてるように、必要に応じて個別の指導・支援をする。
- ・光村図書⁷⁾
単元：鎌倉武士の時代と室町文化
学習活動・指導上の留意点等
 - ・源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を考える。
 - ・鎌倉幕府の政治の仕組みや、将軍と御家人の関係について、御恩と奉公を中心に調べる。
 - ・頼朝が鎌倉に幕府を開いたわけを地図や地形模型から判断したり、鎌倉幕府の政治の仕組みが御恩と奉公の考え方を基底にしていることを考える。

教科書会社が記載している指導事例では、学習指導要領にもとづいて、武家政権の観点から、鎌倉時代から室町時代を1つの単元とされている。また4社とも鎌倉の地形にも留意させる

ように記載されているが（下線部）、ただ単に鎌倉の地形を理解するのではなく、頼朝が鎌倉での開幕が地形的要素によって左右されたことと、4年生で学習する防災上の問題点から鎌倉の地形から考えられることを、もう一步踏み込んで学習する必要があると考えた。

3.2. 鎌倉の地形と鎌倉幕府の指導計画案

学習指導要領に記載されている「調べる・考える・発表する」に「話し合う」を基本にして、源頼朝の鎌倉での開幕と鎌倉との関連性について以下のような指導計画を考えた。

・評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
鎌倉幕府の成り立ち、武士の暮らし、鎌倉の地形について関心を持ち、積極的に探求しようとしている。	幕府と朝廷の関係から頼朝が征夷大將軍にこだわった理由を武家政権の立場から多面的・多角的に考察している。	頼朝の武士支配と朝廷との意図を読み取り構造マップやワークシートに表現できる。	鎌倉幕府が成立した過程や幕府の政治のしくみ、頼朝が鎌倉から離れなかった理由を理解している。

・指導案

学習活動・内容	教師の指導・支援	資料等
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">鎌倉幕府について調べてみよう</div>		
<ul style="list-style-type: none"> 4～5人のグループで鎌倉幕府についての構造マップを模造紙に付箋紙をつかって作り、発表をおこなう。その際、意味のわからない用語も併せて発表する。 <p style="text-align: center;">（源頼朝・御恩と奉公・征夷大將軍・鎌倉・御成敗式目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府学習シート(1)を配布し、教科書やインターネットなどを活用し調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府は征夷大將軍（頼朝）を中心とした武士勢力の支配体制であることに気づかせると共に、幕府体制を構造的に理解できるように構造マップ作りを支援する。 ワークシートで例示した用語の意味については必ず調べて発表できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙・付箋紙 タブレット インターネット ワークシート
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">源頼朝が鎌倉で幕府を開いたのはなぜだろう</div>		
<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府学習シート(2)を配布し、それぞれについて地図やGoogle Earth・Google Mapなどを活用し調べる。 <p style="text-align: center;">（鎌倉地形・七切り通し・鎌倉大仏・鎌倉市など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉の地形から、鎌倉市について防災の観点から気づいたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉の地形を理解させると共に、学習シート(1)で取り上げた「征夷大將軍」の役割を再度確認する。 Google Mapなどの航空写真や地形図を活用することにより、東・北・西の3方が山で、南が海であることから防災上の問題点の把握を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 地図帳 タブレット インターネット

・指導上の留意点

- ① 4～5人のグループに分かれ、鎌倉幕府の成り立ちを構造的に理解できるようにISM構造学習法^{8), 9)}を意識して、関連する項目をマッピングさせ、グループ発表を行う(図1)。

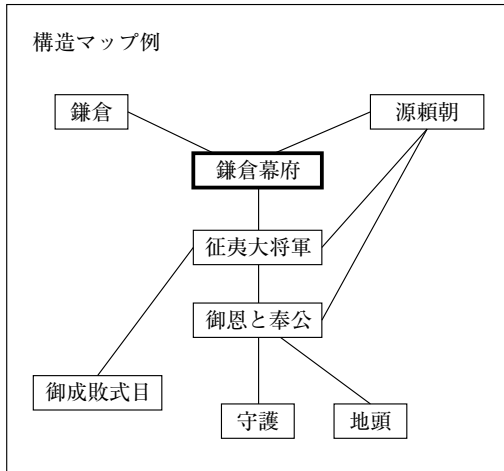


図1

- ② 「鎌倉幕府学習シート(1)」を配布する(図2)。

- 幕府に関することを、自分たちで調べたことと、他のグループの発表とをまとめる。
 - ・「源頼朝」ってどんな人……頼朝が平治の乱後、伊豆に配流され、平氏打倒の後鎌倉で開幕したことを理解させる。
 - ・「征夷大將軍」ってどんな役割……「征夷大將軍」以外の官職では都に出仕しなければならないため、それまでの公家社会に取り込まれなくなかった頼朝が特にこだわった官職であったことを理解させる。
 - ・「御恩と奉公」と「守護・地頭」については、将軍と御家人との関係を理解させる。
 - ・「御成敗式目」ってどんな法律……承久の乱後の北条執権政権で作られたことと、この法律が適用されるのが「御家人」のみであることを理解させる。

鎌倉幕府学習シート (1)

○「源頼朝」ってどんな人

○「征夷大將軍」ってどんな役割

○「御恩と奉公」ってどういうこと

○「守護・地頭」ってなに

○「御成敗式目」ってどんな法律

図2

- ③ 「鎌倉幕府学習シート(2)」を配布する(図3)。

- 鎌倉の位置・地形・災害について自分たちで調べたことと、他のグループの発表とをまとめる。地図帳やGoogle Earth・Google Mapなどで地形も調べる。
 - ・「鎌倉」ってどこにあるの……交通の難所であった箱根の東に位置していることを理解させると共に、頼朝が配流された伊豆の位置も確認させる(都から頼朝討伐軍が派兵された場合、伊豆だと箱根の西に位置しているので、攻められやすいことを理解させる)。
 - ・「鎌倉」ってどんな地形……東・北・西の三方が山に囲われ、南が海であることを理解させ、山の軍事的な要害性は失わず、人々の往来や物資の運搬のため山を最小限だけ切り取って鎌倉と各地を結ぶ道を作り後に京の七口になぞらえて鎌倉七口とよばれたことを理解させる。
 - ・「鎌倉の大仏」って、なぜ屋外にあるの

…高徳院の大仏殿は1498年の大津波によって流され、大仏だけが残ったことを理解させる。

- ・現在の「鎌倉市」について、防災上の問題点をとりあげ発表させる。

鎌倉幕府学習シート (2)

◎「鎌倉」ってどこにあるの

◎「鎌倉」ってどんな地形

◎「鎌倉七切通（鎌倉七口）」って何

◎「鎌倉の大仏」って、なぜ屋外にあるの

◎現在の「鎌倉市」について考えてみよう

図3

4. 構造マップ作成の支援

児童生徒が学習活動を行う上で大切なことは学習内容を体系的に理解することである。歴史学習では歴史事象の時系列や因果関係などの学習内容を体系的に理解することが大切である。学習内容を体系的に理解する手段としてISM構造学習法^{8), 9)}は非常に有効な方法である。

ISM構造学習法とは「頭の中の思考をISM概念構造チャートとして具象化して表現」する方法を用いた学習方法で、構造モデリング法の1つであるISM (Interpretive Structural Modeling) 法を応用した構造学習法である。ISM法では学習要素を抽出し、学習要素間の前後関係、上下関係、因果関係、前提関係などを関連づけて学習内容を

チャートやマップで表現する。この作業のときに、学習要素を手作業によって矢印で結ぶと複雑にからみあって読み取りにくいチャートになってしまう。そこでISM教材構造チャート作成プログラムを用いて学習要素が系統的に整然と配置され、構造の体系が読み取りやすい構造チャートを作成する(図4)。

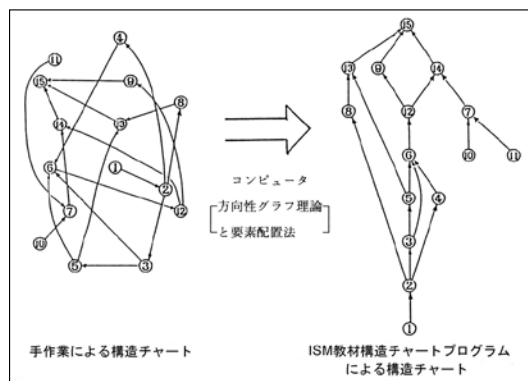


図4

児童にとってISM構造学習法を用いて学習要素を関連づけてチャートを作成する作業はかなり難しい作業である。そこで、第一段階として図5のような関連マップを作成させる。中心の二重線の枠にキーワードを書き込んだものを配布し、周りの空白の枠の中にキーワードに関連するものを教科書やインターネットで調べたものを書き込んでいく。しかし、このマップでは体系的な構造にはなっていないので、教師がISM法を意識して図1のようなマップが作成できるように支援し、体系的な構造マップを作成させる。また、生徒に配布する「学習シート」もISM法で作成することが重要となる。

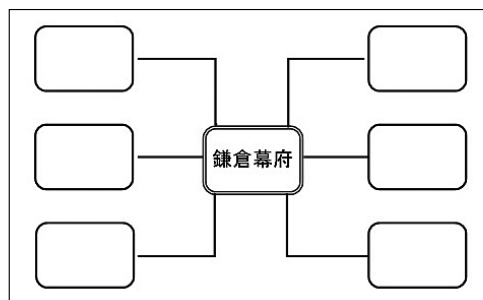


図5

5. まとめ

小学校・中学校とも、学習指導要領社会科の目標が『……国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。』とある。社会的事象、特に国際社会における社会的事象をとらえるためには、歴史・地理の素養が必要である。

小学校で社会に配当されている限られた授業時間の中では地理的条件をふまえた歴史の授業はなかなか難しいと思うが、総合的な学習の時間などを利用して、小学生のうちから地理・地形を意識した歴史学習と、学習内容の構造を体系的に理解した上で、「調べる、考える、発表する」習慣を身につけることが大切であると考える。

参考文献

1) 日本学術会議（心理学・教育学委員会・史学委員

会・地域研究委員会合同）高校地理歴史科教育に関する分科会「新しい高校地理・歴史教育の創造——グローバル化に対応した時空間認識の育成——」, 75p. 平成 23 年（2011 年）8 月 3 日

- 2) 文部科学省「小学校学習指導要領」
- 3) 文部科学省「中学校学習指導要領」
- 4) 東京書籍 平成 27 年度用「新編 新しい社会」年間指導計画作成資料
http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou_current/keikaku/syakai.html
- 5) 教育出版 平成 27 年度用 小学校社会年間指導計画・評価計画（案）
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/view.rbz?pnp=100&pnp=108&pnp=197&ik=1&nd=197&cd=2577>
- 6) 日本文教出版 小学校社会年間指導計画案
http://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/shakai/s-shakai/s-shakai_dl/
- 7) 光村図書 年間指導計画資料・評価計画資料
http://www.mitsumura-tosho.co.jp/27skyokasho/download_shakai.html#keikaku
- 8) 佐藤隆博 ISM 構造学習法 明治図書 1996
- 9) 佐藤隆博 教師のための「21 世紀教育大学院講座」1 構造学習法の入門 明治図書 1996